

第43回定期大会開催!! 2024年度運動方針を満場一致で決定!!

10時30分より中野副執行委員長長の開会挨拶で幕を開けた今大会は、議長に香川支部より山本代表議員(ワープ高松管理駅分会)を選出、議事が進められた。

執行部を代表し挨拶に立った大谷執行委員長は、「コロナウイルス5類移行の影響もあり、JR四国グループは黒字決算となったが、これはまさに組合員の努力の賜物である」と、組合員ならびに家族に対して敬意・謝意を述べ、本大会に付議する3本柱について提起を行った。

大会には来賓として、連合四国ブロックを代表して連合香川・福家会長、

JR四国・四之宮社長、ジェイアール四国バス・矢田社長、JR連合・荻山会長らが出席し、連帯と激励の挨拶を受けた。議事では、執行部から一般経過報告・決算報告、2024年度運動方針案及び予算案が提起され、各支部・各専門部会・青年女性会議を代表する12名の代表議員、特別代表議員による質疑を経たのち、すべての議案が満場一致で可決された。

異動等に伴う役員補充を行った後、藤岡青年女性会議議長より大会宣言案が提起され、これを承認。最後に、大谷執行委員長長の「団結労働」で大会を締めくくった。



スムーズな議事進行にあたった山本議長



JR四国労組は7月5日(金)、「JRホテルクレメント高松」(香川県高松市)において第43回定期大会を開催した。大会には、四国各地より代表議員、特別代表議員、傍聴のほか、来賓と合わせ約140名が出席した。

大会スローガンには「団結創造 実践 すべてを組合員と家族の明るい未来を実現させるべく『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、誇りを持ち安心して働き続けることができる環境づくりを推進しよう!」を掲げ、①安全・安心輸送の確立、②組織の強化・拡大、③労働環境の改善を柱とした、運動方針を満場一致で可決し、新年度方針をスタートした。



大谷執行委員長

大谷執行委員長挨拶要旨

安全・安定・安心 輸送の確立について

労使共通の最重要課題である「安全の確立」は、これまでも運動方針の第一に掲げ取り組んできた。改めて「安全」については、絶対的的使命であることと胸に刻み、「安全・安定・安心輸送の確立」と「重大災害の撲滅」に向けて取り組むことを確認したい。

そのような中、「幸いにして」JR四国グループではお客様や組合員などの死亡事故は発生しなかったものの、重大事故に繋がりがかねない事象が多く発生し、労働災害についても過去に死亡労災に至ったものと同様の事象が発生した。ジェイアール四国バスでは2023年度内に安全に関する重大事象により、2度にわたる

行政処分を受けた。こうした状況を踏まえ、「要員不足」、それに伴う業務過多、指導教育の不足、あるいはコミュニケーション不足が事故の背後要因にあるのでは、と会社に強く警鐘を鳴らしてきた。加えて、会社との協議においても、「経営陣、主幹部、現場長や管理者、そして従業員の間に見えない壁があるのでは」「風通しが悪くなるのでは」と指摘してきた。これは、JR四国で昨年末に実施したエンゲージメントサーベイによる調査結果でも明らかになっている。

この間、要員不足から矢継ぎ早に効率化施策が展開されてきたが、組合としても説明を単に鵜呑みにせず、「安全」を最優先に、現場の実態を踏まえ協議を臨み、チェック・提言機能を発揮してきた。しかしながら、結果として「要員不足」が先行し施策の効果が実感されず、「不安」だけが広がっているように感じる。先月「車両検修等の今後の在り方について」提案を受けた。「経営資



ジェイアール四国バス 矢田社長



JR四国・四之宮社長

来賓の皆様 (順不同)

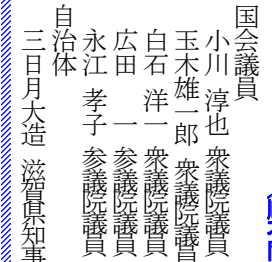
- 連合香川 福家良一 会長
- 西地域協議会 石川 哲也 事務局長
- 四国旅客鉄道(株) 四之宮和幸 代表取締役社長
- 眞鍋 健治 代表取締役社長
- ジェイアール四国バス(株) 矢田 栄一 代表取締役社長
- 宮井 照暁 総務部長
- JR連合 荻山 市朗 会長
- 四国労働金庫 杉本 宗之 理事長

拡大について

職種や職場を越え、笑顔を作る機会を創出できるのは労働組合の強み。レクリエーション活動やユニオンスクール等各種ツールを最大限活用し、人と人のつながりを強くし、人財の確保・定着を図る。

また、JR連合では、「男女共に生き生きと働き続けられる職場環境の整備」、そして「女性組合員が参画しやすい組織づくり」に向け取り組んでいる。JR四国労組でも組合員の10%超が女性となるなど、以前と比べ多くの女性組合員が活躍している。昨年度、本部長が選出されたことを受けて、より一層参画しやすい組織づくりに向け、レディースミーティングの充実や青年女性会議との連携に加え、女性役員へのネットワーク強化に向けた取り組みを新たに展開する。そして、定着化や管理職登用、キャリアビジョンの明確化、女性役員の育成などの仕組みづくりを図り、さらなる女性活躍を推進する。

多様性が求められる時代、包摂的な環境を作り上げることは重要。現状に固執することなく、労働組合からも提言を行い、



祝電・メッセージ (順不同)

- 小川 淳也 衆議院議員
- 玉木雄一郎 衆議院議員
- 白石 洋一 衆議院議員
- 広田 孝一 参議院議員
- 永江 孝子 参議院議員
- 自治体 三日月大造 滋賀県知事

- こくみん共済coop 井出 哲夫 本部長
- JR四国労組議員団会議 山本 悟史 団長
- JR四国労組顧問弁護士 大平 昇 弁護士
- JR四国労組職員連絡会 清水 和博 会長

- 四国電力関連産業 労働組合
- 日本私鉄労働組合 労働組合総連合
- 日本郵政グループ 四国地方連合公会
- 労働組合四国地方本部 タダノ労働組合
- アイネクスト

- JR四国労組議員団会議 藪 乃理子 副団長
- 橋本 敏男 幹事
- 米田 優 幹事
- JR北海道労働組合
- ジェイアール・イースト・ユニオン
- 東海旅客鉄道労働組合
- 西日本旅客鉄道労働組合
- 九州旅客鉄道労働組合
- 日本貨物鉄道産業 労働組合

源の集中化や省力化を図り、経営基盤の強化を推進する」という目的について、現場では会社の将来展望に対する強い不安感が広がっており、安全環境にも影響が出ないか危惧している。

安全に関する取り組みは、最前線である組合からの主体的な取り組みを基本として、事故や労災事故を防止するともに、グループ会社や関係会社との連携も極めて重要。要員不足が深刻化する中、効率化や省力化施策が矢継ぎ早に実施されているが、「安全と経営が決してトレードオフの関係にならないこと」を各頭に、労働組合からは引き続き、「安全は絶対譲らない」という強い信念を持って、チェック・提言機能を最大限発揮していく。

また、JR連合では、「男女共に生き生きと働き続けられる職場環境の整備」、そして「女性組合員が参画しやすい組織づくり」に向け取り組んでいる。JR四国労組でも組合員の10%超が女性となるなど、以前と比べ多くの女性組合員が活躍している。昨年度、本部長が選出されたことを受けて、より一層参画しやすい組織づくりに向け、レディースミーティングの充実や青年女性会議との連携に加え、女性役員へのネットワーク強化に向けた取り組みを新たに展開する。そして、定着化や管理職登用、キャリアビジョンの明確化、女性役員の育成などの仕組みづくりを図り、さらなる女性活躍を推進する。

多様性が求められる時代、包摂的な環境を作り上げることは重要。現状に固執することなく、労働組合からも提言を行い、

誰もが働きやすい環境の創出が求められる。労働組合の役割を發揮して、主役は組合員一人ひとりであり、「会社」を組織の礎と捉え、「JR連合ビジョン」を広く展開し、仲間と共に寄り添い取り組みを強く要請する。

また、JR連合では、「男女共に生き生きと働き続けられる職場環境の整備」、そして「女性組合員が参画しやすい組織づくり」に向け取り組んでいる。JR四国労組でも組合員の10%超が女性となるなど、以前と比べ多くの女性組合員が活躍している。昨年度、本部長が選出されたことを受けて、より一層参画しやすい組織づくりに向け、レディースミーティングの充実や青年女性会議との連携に加え、女性役員へのネットワーク強化に向けた取り組みを新たに展開する。そして、定着化や管理職登用、キャリアビジョンの明確化、女性役員の育成などの仕組みづくりを図り、さらなる女性活躍を推進する。

質疑討論(要旨)

香川支部

中川代議員 (香川支部)



■離職の増加等の影響を受け、厳しい組織財政状況と説明があったが、経費削減にも限界があるのでは。今後の方向性や対応等どのように考えるか。

工藤代議員 (香川支部)



◆要員不足とエキスパート組員の退職が相俟つた中、安全業務を含めて技術継承をどのように会社は考えているのか。また、橋梁上から資材が落下する事象があったと聞く。グループ会社、協力会社も含めた事故が増えている、一体となった安全教育の拡充を求める。

件は真摯に対応を行わなければ、新たな離職に繋がる懸念があるが、本部としてどのように対応しているのか。あわせて、四国鉄道機械において、労働組合が存在しないことと聞くと、今後どのように対応するか。

◆ベースアップ獲得、賞与水準引き上げ、御礼申し上げる。組合員からも「また頑張ろう」という声があがっている。一方で、賃金制度においては、定期昇給における同一等級の通減制度がモチベーションの低下を招いている。また、エキスパート組合員の期末手当に関する係数設定については、社会保障制度が変わる中、見直されておらず、賃金制度全般の見直しが必要と考える。昨今の離職状況に組合員は深刻な危機感を抱いており、エンゲージメントサーベイでも「処遇改善」が必須という結果が明らかになった。

◆人事・賃金制度について「55歳以上の基本給支給率」「一定年延長を含む高年齢層の働き方・賃金」等課題があり、会社は「2025年度中期経営計画の達成状況を見ながら検討する」と回答があったが、目下55歳に迫る組合員もいる中、早期の検討を求める。

◆要員不足が慢性化している。人材確保に向け、エリア制度の構築、単身赴任者に対する支援等異動に伴う負担軽減を求め、ワンマン列車の多様化、無人駅の増加等運転士の業務は拡大している。ワンマン手当の新設を求め、経営協議会で議論されている日中の列車運休等の早期実現とともに、夜間作業の過酷さに見合う水準の夜勤手当の引き上げも要請する。会社に対し、組合から対案を示し交渉に臨みたい。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

材確保に向け、引き続き改善を期待する。◆今秋から徳島にも女性車掌が配属となる。女性の職域拡大が実現する反面、現場では設備面において不足があると受け止めており、駅の女性の運転業務従事者等との調整が必要との声も聞かれるなど課題感がある。必要な設備が整ったうえで配属を望む。また、工務職場において貸与される組合員もいる中、早期の検討を求める。

◆コロナ罹患の疑いがある場合、検査の受診を躊躇し、感染拡大に繋がらない様、障害休暇の拡充を求める。

◆徳島支部では親子対話・勉強会を開催し、有意義な場を持てた。ユニオンビジョンを羅針盤に今後各方針に取り組みしていく。

◆保存休暇の使用要件にコロナも含まれるが、申請に際し医師の診断書が必要である。診断書の取得には費用が発生するため、保存休暇の取得を諦める組合員がいる。要員が不足し年休を使用できない中、使用できなかった年休の補填となる保存休暇が使用できないことは制度の趣旨と反することではないか。病院の処方箋や明細書等で使用可能とするよう要件緩和を求める。

◆先般、大雨の影響で土佐北川駅に乗務員が8時間取り残された。途中で代替の乗務員が現地に到着するも、国道の雨量規制で送り込みが出来なかった。安全の観点から1駅手前の大杉駅での抑止等早めの判断が求められると考える。

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

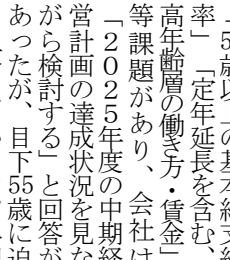
◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

徳島支部

高松代議員 (徳島支部)



◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

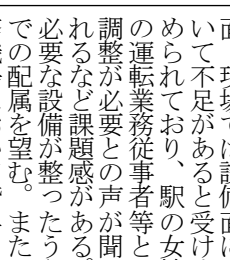
◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

高知支部

岩佐代議員 (高知支部)



◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

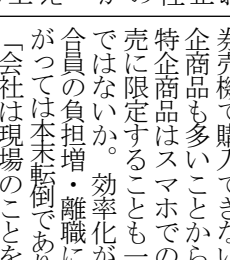
◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

◆「コロナ禍の克服とこの間の労苦に報いる一時金」、2024春闘、夏季手当について御礼申し上げる。特にベースアップは2年連続の獲得となり、組合員からは「メッセンジャーを感じた」「苦しいコロナ禍においても安全・安定輸送の維持が報われた」との声があった。賃金は最大のモチベーションと受け止めており、人材確保に向け、引き続き改善を期待する。

本社支部

立花代議員 (本社支部)



◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

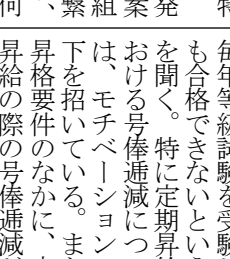
◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

自動車支部

仲田代議員 (自動車支部)



◆会社発給初となるベースアップにおいては、2500円の獲得、夏季交渉では、コロナ禍前の水準に近い2、15カ月の支給があった。明るい兆しが見えてきているとの声があり、今後の交渉もよろしく願っている。

◆コロナ禍を経て、離職が増加し、現在でも運休が発生しているのが現状。採用状況も少しずつ改善しており、見習い運転者も増加しているが、要員不足により指導にも影響が出ている。要員不足を解消し、通常運行の確保、さらなる収益獲得に向け、続行便を運行するとも継続し、燃料費等の高騰を適切に価格転嫁することでも、原資を確保し、基本給のさらなる改善等、適正な利益成果の分配を求める。

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

◆夏季手当において会社発給以来最大の上げ幅の獲得に御礼申し上げる。今後も連続性をもちて改善を求めるとともに、中堅層

▽効率化・集約化・業務全般

(宮澤部会長氏)

◇車両検修業務の見直しについてJR四国・ジェイアール四国メンテナンス・四国鉄道機械の3社が各職場で説明を行っている。組合員からは説明に不十分な部分があると。声の聞こえておらず、JR四国労組はJR四国に対して、またジェイアール四国メンテナンス労組はジェイアール四国メンテナンスに対してそれぞれ申し入れを行っている状況にある。構内業務を希望してジェイアール四国メンテナンスに就職された方の意見についても、メンテナンス労組とも意見交換を行いながら協議を進め、情報発信を行う。

◇高知駅では既に自動放送が導入され、この度完成する松山駅でも導入される予定と聞いている。働き方改善の観点からも窓口業務、除草業務等機械に任せられる部分は機械に任せ、業務を減らし、要員状況を改善していくことは重要な観点であり、会社にも引き続き求めていく。

◇アシストマルスのオペレーター稼働時間については、窓口営業時間と重ねるような時間の拡大を求めている。また、お客様に窓口以外の切符購入に慣れていただく観点から、アプリ等で発売されている割引切符等の周知・宣伝をさらに行う様、それぞれ会社とも協議を行っている。窓口業務の負担軽減に資するよう、引き続き議論を行う。

◇JR他社においてカスタマーハラスメント防止ガイドラインについて報道発表を行っている。JR

R四国においては公表されてはならないもの、ガイドラインの策定が行われた。会社が毅然とした態度をとることは重要と考え、ポスターの掲示等に加え、社外に公表していくことも会社と協議していく。

◇先日の経営協議会において、土佐北川駅で長時間列車の抑止があった事象について議論した。大雨の想定が大杉駅での抑止に至らなかったという判断がなされたという事であったため、安全サイドでの運行に努めるよう改めて訴えた。

◇旅行業、車掌業務など、業務範囲が従前と異なってきたという部門においては、将来不安が離職の一因ともなりかねない。現場で働くプロとして今後必要な職種であると考えており、継続的に養成するとともに、各職場で頑張る方の不安解消に資するよう会社にも訴えていく。

◇各系統において、個人や担務単位でスマホの付与がなされた。業務用スマホの利用目的を鑑みると、個人貸与を行い、事故速報メールを含めて業務に関する連絡は業務スマホで対応できることが望ましい。

◇「リンクスマートえきちゃん」については、お客様自身で任意のタイミングで購入できるもの、まだまだご利用しにくい部分もあると考えており、引き続き改善を求めるとともに、みどりの窓口も減少する中、福利厚生面からも購入券の使用が行えるよう会社には申し入れしていく。

◇要員不足が超過勤務等を招き、さらなる離職を産む負のスパイラルに陥つ

てはならない。要員の確保に向けては採用面のアプローチも必要となってくるため、業務内容や会社の魅力をYouTube等を通して発信するほか、高校の採用担当の先生を職場に招き見学会を行っている。一方で、要員が絞られる中においては、業務量の削減も必要な取り組みである。デジタル化によって説明資料等が簡素化されているという課題もいたしたが、資料が簡素化されたのであれば、その分丁寧な説明する等、改めて会社に訴える。

中野副執行委員長



▽安全・組織・グループ連合

◇資機材の落下については、会社に対し申し入れを行い原因究明、対策等必要な議論を行っている。今回の事象で改めて認識されたのは、グループ会社や協力会社も含めた安全教育のあり方が重要であるという点であり、経営協議会の中でも議論している。JR四国としてしっかりと管理していくとともに、風化防止にも努めるといふことで回答を得ている。安全に関しては労使ともに妥協せず対応していく。

◇触車事故防止のルールの見直しについて、「職場の安全を守る基本ルール」を認識し、遵守する職場風土作りに取り組み

という点は会社とも共通認識として持っており、この方針に基づき、推進していく。

◇JRグループにおいて、昨年7月の死傷事故があった。グループ・協力会社については、会社として、安全対策を共有しながら安全教育・勉強会を開催するとともに、協力会社の従業員に展開することが重要であると考え、組合からも促していく。あわせて、工務系のグループ会社等においても、組織化することで、安全の取り組みを拡大していきたい。

◇四国鉄道機械において、労働組合はあるものの、経営協議会等が行っていないと聞く。メンテナンス労組組合員からすると四国鉄道機械に転籍



組合員の声に向き合う執行部

する際に、労働条件等不安があるという声もあることからJR四国連合としてもしっかりと支援していく。

▽運転部会関連

◇乗務員の西条乗継ぎの拡大により、行路が良くなったという意見を聞く。まだロング行路が残っている部分や、線見の期間が切れるといった課題感もある。引き続き改善に取り組み。また、指導・交番について、宇和島運転区で行われている、一体運用を行うことで、日勤化できた例もあり、改善できる部分については、引き続き会社に提案していく。

◇先日の経営協議会において、車掌業務が7月に終了になるとの回答があった。今後も車掌の要員状況にに応じて対応を求められることもありうるが、実施にあたっては運転士業務に戻った際の安全面での課題や収入水準に関する課題等について明らかにするよう会社には申し入れていく。

◇要員状況に基づいて、列車頻度と本数を見直す必要性については、会社も認識している。要員不足の解消に向け、引き続き議論していく。

◇保護メカネの導入にあたっては、乗務員の目の保護の観点から会社に訴え続けて結果、今回の試行に至った。費用面の課題感もあるため、個人貸与とはいかないものの、引き続き改善できる部分から取り込む。

◇触車事故防止のルールの見直しについて、「職場の安全を守る基本ルール」を認識し、遵守する職場風土作りに取り組み

逆転現象をなくすことができた。今後は55歳以降の更なる改善が求められるが、原資に限りがある中でバランスを見ながら、基本給・手当を含め制度全体で考えていく必要があると認識する。



▽工務部会関連

◇工務系統は現状学校区分や系統を広げて採用を行っている。採用チャネルも拡大し、人材会社からの紹介のほか、ハローワーク等も活用しており、今後は職場・分会での定着が重要となっていくため、また各級機関において、寄り添った対応をお願いする。

◇Web・TIDを活用した列車位置確認は、来年度から部分的に運用を開始すると聞いているが、スケジューリング感及び対象区間について、現場との対話を行いながら進めるべきと考えており、改めて会社に訴えていく。

和執行委員



▽男女平等参画

◇目下JR連合で取り組んでいる「第4次男女平等参画行動目標」の実現に向け、まずは女性役員参画の実現、次いで組合員の男女比率までの参画の実現に向け取り組んでいる。達成率を目標に掲げるものの、本来の狙いは多様な方の参画によって組合活動を推進していくことが重要であることを

理解いただいたうえで、今後各支部・分会等で役員補充を行う際にも留意いただきたい。既に参画されている女性役員からレディースミーティング・男女平等参画推進委員会等で会議の開催様式等に関する意見もいただいております。本部の執行委員会等では、オンラインも活用しながら実施している。

▽青年女性会議

◇青年女性会議の諸活動に御礼申し上げる。まさに組合活動の入り口であり、引き続き幅広い仲間を巻き込んだ活動展開をお願いする。各支部・分会においては、引き続き青年女性会議活動のフォローをお願いする。

▽政策

◇地域公共交通の維持については、JR連合から交通重点政策補足版が本年の4月に作成されたが、基本的には鉄道ありきではなく、地域に必要な公共交通網が何なのか、地域において議論がなされるべきと考えている。公共交通に支援が必要な場合においても、こうした議論に基づき住民の皆様も理解したうえで、必要な支援等がなされるという流れが望ましい。

◇昨今カスハラに関する報道が増えているが、JR連合も現場実態に関するヒアリングを厚生労働省から受けておりJR四国労組としても参画している。実態として、お客様からのクレーム対応において、どこからかカスハラが判断が難しく、ひいては警察の介入が困難な実態がある。現在会社がマニュアルを作成し、今後訓練等で周知されるだろうが、まずは働く皆さんがカスハラを線引きを理解したうえで、会社も実態把握に努めることが重要。一方で、労働組

合としては、組合員が守られるよう、世間一般でカスハラ基準が作られることが重要と考えており、交通労協や地域連合等とも協力し、運輸局や自治体に対して条例の作成、啓発活動の普及等の申し入れを行っている。



全ての議案は満場一致で承認された

◇収益拡大に向け、事業領域の拡大を会社は行っているものの、人材の確保が追い付いていないのが現状。引き続き経験者採用等が必要だと考えるが、まずは確実に組合員に加入いただき、鉄道事業も非鉄道事業も長く働くことのできるよう、様々な視点を反映できるように寄り添った活動をお願いする。

▽事業開発部会関連

◇収益拡大に向け、事業領域の拡大を会社は行っているものの、人材の確保が追い付いていないのが現状。引き続き経験者採用等が必要だと考えるが、まずは確実に組合員に加入いただき、鉄道事業も非鉄道事業も長く働くことのできるよう、様々な視点を反映できるように寄り添った活動をお願いする。

中村書記長後援発表(要旨)

対話を重視し「全員参加」の組合活動を展開しよう!



中村書記長

JR四国グループにとって、2023年度は明るい1年となった。組合員一人ひとりの努力や家族を含めた協力が実を結んだと実感している。引き続き地域を支える社会的使命を果たすべく、前向きに歩みを進めていきたい。そのためには「原動力とする「人財確保」



大谷委員長の団結ガンバローで第43回定期大会が締めくくられた

を確保していくよう、皆様ともこの想いを共有していきたい。

安全・安定・安心輸送の確立について

これまで、「JRという看板は安全という土台のうえに立っている」と発言してきたが、重大事故や重大事象は後を絶たない。この間、経営協議会などを通じて、乗務員の運転支援アプリや列車見張り員の補助装置等のハード対策の強化や、ソフト面から安全水準の維持を前提としたルールの見直しや簡素化、安全に対するプラス評価の構築を訴えてきた。こうした取り組みを真の安全に繋げるには、安全のABCを一人ひとりが実践していくことに尽きる。労働組合があるからこそ横のつながりを活かして互いに協力、注意喚起し合い、安全性を高めることができる。是非とも安全最優先の行動・意識の共有をお願いする。「要員不足」が「安全」に影響しているか危惧する。会社は効率化施策を矢継ぎ早に実施しようとしているが、効果を感じるまでに至っていないのが現状。ジェイアール四国バスでは乗務員不足による定期便の運休が発生、鉄道でも要員不足が深刻化するなど、無理を強いて大きな事故等を引き起こしてはならない。「安全」の面から「人財確保」が必要不可欠であり、単にハード対策を講じたり、効率化を進めさせるだけではなく、「人を確保し、教育する」ということを並行して進めながら「安全確立」を行うべき。「人財投資」は「安全投資」として採用と定着に向けて取り組みを求めていく。

組織の強化・拡大の取り組みについて

原点である「対話」を重視し、「全員参加」の運動を志向していくこと。で「組織の強化・拡大」を推進する。労働組合の起源は、産業革命において、労働者が酒場に集まり、語り合い悩みを解決したことから始まったと聞く。まさに「出合いふれあい、語り合い」という言葉の体現であり、現代においてもデジタルも活用しつつ、誰もが参加しやすく「対話」できる機会を創出したいと考えて、各級機関においても男女老若等参画推進に関して、昨年度本部・各支部において執行部に女性役員を輩出のうえ、レディースミーティングや男女平等参画推進委員会に、女性役員に参画いただき、連携を深めた。今年度はさらに前進させるべく、委員会のような形を作りたい。また、女性役員を参集したいという意図を込めて、女性役員に対して意見や要望を伝えることもしたい。財政を理由に活動を停滞するわけにはいかないが、ない袖を振れないのも事実。今後組織財政専門委員会としてしっかりと協議していく。

賃金水準や労働環境の実現に向けて

賃金水準は、今春闘でのベースアップでも一定の改善が図られるも、まだまだ「必達目標賃金」に及んでいないことから引き続き取り組んでいく決意であり、毎年積み上げていくべきものだと考える。一方で、「人事・賃金制度」の見直しも必要。すでにJR採用の高卒一学期生55歳が迫っており、基本給の課題は早急に見直す必要がある。ただし、原資が無限にあるわけではなく、全体的な見直しも必要と認識する必要がある。生涯賃金として面積を大きくすること、どの年代にどのよう積んでいくかはそれぞれで意識しながら、双方で意識しながら主張していきたいし、「多様性」の観点からは一人ひとりのキャリアビジョンに対応したそれぞれの賃金カーブもあると考える。引き続き「ユニオンビジョン」を柱に

原資を生み出すために

は収支改善に取り組むとともに、労使で解決できない課題について、政策活動を通じて年度以降の支援実施、四国新幹線の実現を果たしていく必要がある。JR連合には石川局長という強い味方もおり、関係議員なども協力関係構築してきた。この関係があるからこそ展開できるという点もぜひご理解いただき、引き続きのご協力をお願いする。

来年4月に総合共済が「JR連合総合共済」となり、補償内容が一部変更は不要だが、各級機関においても周知展開をお願いすると同時に、総合共済に未加入の組合員に対する「JR連合総合共済」への加入促進にご協力、よろしく願います。

ユニオンビジョンにもあるように、私たちの仕事に対して、相応



大会後のレセプションにて日頃会う機会に限られる仲間とも交流を図ることができた

大会宣言

JR四国労組は本日、JRホテルクレメント高松において「団結 創造 実践 すべての組合員と家族の明るい未来を実現させるべく『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、誇りを持ち安心して働き続けることのできる環境づくりを推進しよう!」をスローガンに掲げ、第43回定期大会を開催し、この間の運動の成果を確認するとともに、真摯で活発な議論を通じ、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

JR四国・ジェイアール四国バスを取り巻く環境は、コロナ禍を抜け、明るい兆しが見えつつあるものの、少子高齢化や人口減少、物価高騰に加え、記録的な円安の進行など急激に変化する社会情勢によって、厳しさに拍車がかかっている。さらに、労働市場の流動化を背景に、将来への不安感等から離職する組合員に歯止めがかからず、屋台骨である人財基盤が危機的状況にある。私たちJR四国労組は、矢継ぎ早に実施される各種施策に対して「安全」と「雇用」を第一義に労使協議に臨むとともに、現下の離職拡大に対しても労働条件の改善等を通じて「人財の確保・定着」に取り組んできた。本年度は「中期経営計画2025」の達成に向け、まさに正念場となる一年であり、労使が一体となって目標達成に取り組むべく、JR四国・ジェイアール四国バスの責任組合として、次の三点を基調として実践する。

- 1 「安全・安定・安心輸送の確立」を最重要課題に、足元で深刻化する要員不足が安全に支障をきたしてはならないという認識のもと、真摯な労使協議に基づきチェック・提言機能を発揮し、グループ会社・協力会社を含め安全最優先の職場風土づくりに向けた取り組みを展開する。
- 2 JR四国グループの成長・発展には、「JR連合ビジョン」に掲げる健全な労働組合と建設的な労使関係の構築が必須であり、「多様性と包摂」を念頭に組合員一人ひとりと向き合い、コミュニケーションの充実と全ての仲間が参加しやすい組織づくりを進める。とりわけ、女性役員を中心とした新たな活動を展開し、女性の参画機会の創出を図り、各機関の連携を深めていく。
- 3 事業運営に不可欠な「人財の確保・定着」に向けて、ベースアップをはじめ賃金改善の流れを継続し、着実に積み上げていくとともに、誰もが安心して働くことのできる環境づくりに向け「ユニオンビジョン2023」に掲げる各種方策の実現を目指す。あわせて労使で解決できない政策課題を解決していくべく、そのために必要な政治活動にも取り組む。

私たちはコロナ禍を経て、「産業の転換期」「第二の創業期」に直面しているといえる。この新たな試練には世の中の変化の激流に晒されようとも、強くしなやかに乗り越えていくことが求められている。JR四国グループに働く者としての強い信念と柔軟な発想を胸に、私たちが社会的使命を日々果たし、着実に歩み続けることこそが、その道のりを明るい未来へと繋げるものと信じ、一人ひとりが自信と誇りを持ち、様々な課題に立ち向かっていかなければならない。私たちは責任組合として組合員同士の強固な団結のもと、これらの課題解決にともに取り組み、将来に亘り責任を持ったJR四国労組運動を、全組合員が協力一致して展開していくことをここに表明する。

以上、本大会の総意として宣言する。

2024年7月5日
四国旅客鉄道労働組合
第43回定期大会

2024年度JR四国労組本部役員名簿

執行委員長	大谷 清 (愛媛企画部)
副執行委員長	武智 義治 (松山運転所)
書記長	中野 圭司 (多度津運転区)
執行委員	中村 鉄平 (高松駅)
執行委員	和田 庄平 (四国国家連携部)
執行委員	杉本 慶太 (高松駅)
執行委員	山本 鉄平 (松山運転所)
執行委員	笹岡 慎平 (徳島駅)
執行委員	河野 憲司 (高知運転所)
執行委員	河野 賢 (運輸部運輸課)
執行委員	岩本 敏幸 (ジェイアール四国バス高松支店)
執行委員	土井 俊哉 (多度津運転区)
執行委員	今井 勇樹 (松山電気区)
執行委員	尾上 連太郎 (徳島保線区)
執行委員	今村 健一 (高知運転所)
執行委員	【新任】西浦 慧 (営業部誘客戦略室)
執行委員	【新任】仲田 幸平 (ジェイアール四国バス松山支店)
特別執行委員	玉井 江吏香 (愛媛企画部)
特別執行委員	石川 敏也 (JR連合派遣・高知駅)
特別執行委員	藤岡 祐司 (多度津運転区)
特別執行委員	香西 若菜 (運輸部運輸課)
会計監査	三好 幸治 (高松運転所)
会計監査	岡本 茂 (高知運転所)
会計監査	河野 勉 (松山電気区)

本部青年女性会議 第32回定期委員会開催！



新たなスローガンのもととこう1年間の方針を決定！

7月20日(土)、ホテルアネシス瀬戸大橋(香川県宇多津町)において、「本部青年女性会議第32回定期委員会」が6支部から選出された28名の委員をはじめ、来賓及び傍聴者の出席のもと総勢52名により盛大に開催された。

近藤(正)副議長の開会挨拶で始まった本委員会は、議長に徳島支部の楠本委員を選出。スローガンに「STEP by STEP」を掲げ、常任委員会より一年間の活動経過及び今後の活動方針案が提起された。質疑では、職場環境・労働条件の改善、離職防止、育児をふまえた働き方の拡充、ボランティア活動のあり方等について各支部青年女性会議を代表する8名の委員から質疑があり、執行部より答弁した後、満場一致で全ての議案が承認された。



議長のもと、今回新たに選出された役員を含め総勢19名での新体制がスタートした。

その後、香西副議長より委員会宣言案が提起され、承認の後、青年女性会議らしく「明るく・楽しく・元気よく」活動し、さらなる飛躍を目指す想いを込め、藤岡議長の「団結ガンバロー」で締めくくった。

(詳しくはプラスアルファ第409号を参照)

「勤務制度等の一部改正」に係る団体交渉を開催！

JR四国労組は7月16日に「勤務制度等の一部改正」に係る団体交渉を行った。

本交渉は、会社側より「勤務制度等の一部改正(以下参照)」に関して概要及びその趣旨について提案を受けた後、交渉に入った。

組合側は、従前より、総合労働協約改定交渉において、「労働時間の短縮」及び「乗務員勤務の行路拘束時間の短縮」を申し入れており、今回

の提案はその趣旨を会社が理解し、前進が図られたものと受け止めたうえで、今回のタイミングで実施に至った背景や、施策の狙い、具体的な運用について質疑を行った。

本提案については関係する組合員より意見を整理し、説明すべき論点を交渉を行うことを業務対策委員会にて確認した。(詳しくは、JR四国労組ニュースNo.4を参照)

新執行部三役

議長 藤岡 祐自 (多度津運転区)	副議長 香西 若菜 (運輸部運輸課)
副議長 近藤 直樹 (高松運転所)	事務局長 芝 翔太 (高知運転所)
〃 三木 和仁 (鉄道事業本部)	〃 〃 (新任)

「勤務制度等」の一部改正(案)抜粋

- 乗務員の1日平均労働時間の見直し
 - ・「7時間35分」を「7時間15分」に変更
- 「労働時間A」「労働時間B」の見直し
 - ・「労働時間A」を「労働時間」に改称
 - ・「労働時間B」を廃止
- 「準備時間」「折返し時間」の見直し
 - ・点呼時間や引き継ぎ時間等について、作業実態を踏まえた時間に見直し
 - ・駅ごと、箇所ごとに設定している徒歩時間について、箇所ごとの平均徒歩時間のうち、最も長い箇所の時間に原則統一する。
- 超過勤務扱いとしている乗務員訓練・業務研究会・現車訓練時間の所定労働化

レ・サクルをのり



晴天に恵まれました！

私たちが多度津運転区組合では、5月21日に町内の健康と親睦を図るため、三豊市みみの「ふれあいパーク」へハイキングを行いました。

当日は天候にも恵まれ、5月にもかわらぬ日差しが強く、汗ばむ陽気でしたが、風が心地よく感じられ、絶好のハイキング日和となりました。

「ふれあいパーク」は、みもの東に位置し、参加者のみどころから徒歩で1時間ほどかけ、みもの風景や、気持ちのよい新緑の自然に触れながら楽しく「ふれあいパーク」を目指しました。到着した後は参加者みんな飲み物を食べ、冷たい潤い、憩いのひとときを過ごしました。

今後、組合員とその家族の理解と協力が得られるサークル活動を計画し、さらなる組織の活性化を図ってきたいと思っております。

多度津運転区分会
中川 祐人

ボランティア活動に参加

連合「2024平和行動 in 沖縄」

連合は沖縄「慰霊の日」である6月23日に、那覇文化芸術劇場「なはと」において、2024平和行動 in 沖縄「連合平和オキナワ集会」を開催し、JR四国労組から参加した藤岡本部青年女性会議議長、角南常任委員の2名及びJR連合に派遣している石川産業政策局長を含めた、合計5名がJR連合から参加した。

「2024平和オキナワ集会」は、「語り継ぐ戦争の実相と運動の連続で恒久平和を表現しよう」をテーマに開催され、前泊博盛・沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科教授による基調講演「再考・日米地位協定」「標的の島」からの警告・米軍、軍拡、憲法、自衛隊」のほか、平和式典等が開催された。

連合「能登半島地震」ボランティア活動

連合は本年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」について「連合救援ボランティア」を3月25日から開催しております。

第1回本部執行委員会開催！

7月5日(金) 第43回定期大会終了後、第1回本部執行委員会をJRホテルクレメン高松で開催した。経過報告及び議事は次のとおり。

【経過報告】

- ・JR四国労組 第43回定期大会

【議事】

- ①専従指定について
- ②特別執行委員の指定について
- ③2024年度任務分担について
- ④2024年度各種委員会等名簿について
- ⑤年間スケジュールについて
- ⑥2024年度教育・広報委員会の開催について
- ⑦2024年度サークル協議会運営委員会の開催について
- ⑧第1回業務対策委員会の開催について
- ⑨部会三役会議の開催について
- ⑩その他
- ⑪新入組合員対応に対する補助の支給について

・第2回執行委員会開催について

その他

【各支部定期大会開催日程】

《本社支部》	8月21日(水) 18:30~	サンポートホール高松
《愛媛支部》	8月24日(土) 14:00~	ろうきん松山ビル
《高知支部》	8月30日(金) 14:00~	高知城ホール
《香川支部》	8月31日(土) 13:00~	ホテルアネシス瀬戸大橋
《徳島支部》	9月2日(月) 13:30~	あわぎんホール
《自動車支部》	9月4日(水) 13:00~	サンポートホール高松



輪島朝市での作業の様子

り、JR連合から、4クルル合計10名が被災地救援ボランティアとして、被害状況の把握、復興支援を行った。JR四国労組からは、和田執行委員が5月26日から6月1日の間現地入りし、七尾市を生活拠点として、輪島市を中心に現地の復興作業に取り組んだ。

ボランティア作業として、作業を希望される方の自宅に赴き、地震による発生した災害ごみの整理、家財道具の移動、避難所への物品の納品などを行った。各地において、倒壊したままの家屋や、道路のひび割れ・断層、沿岸部では地震により10m近くの隆起が発生した場所が見られるなど、未だ街に地震の爪痕が残っていた。また観光地として有名な朝市が、震災直後に発生した火災によって燃焼した建物があるままになっており、震災から5ヵ月(当時)経っても尚、復興の難しさを表していた。

JR四国労組は広範な知識の取得・視野を深める観点からも引き続き連合等の連帯活動に参画していく。

